

小・中学生の部 講評

自由部門 (選考委員：牧田 菊子氏)

自由部門には二百二十八点の応募がありました。自由部門は、白川静博士や漢字をテーマに、自由な発想で創作した作品を、考えたことや工夫した点などの解説を添えて応募する部門です。

漢字を一つの窓として、自分の生活や生き方を見つめ直し、考えたこと等をストーリーとして、率直に、楽しみながら、工夫して発信している作品に多く出会えた印象があります。それぞれの豊かな感性にとても心動かされました。今後の取組も楽しみにしています。

漢字川柳部門 (選考委員：斎藤 瑞恵氏)

漢字川柳部門には百四十二点の応募がありました。川柳は、漢字の成り立ちに関するものというところで、小中学生のみなさんは、まず成り立ちを調べ、そこから想像をふくらませて五・七・五の川柳に表現していました。

どの作品も、漢字との対話により、遠く時代は離れていても古人が思い巡らせた情景や心情と同じものを見て、豊かに連想し、自分の言葉で生き生きと表現していました。

次年度も、漢字を通して想像の翼を広げ、楽しみながら川柳作りに取り組んでほしいと思います。

漢字作文部門 (選考委員：斎藤 瑞恵氏)

漢字作文部門には二十四点の応募がありました。漢字にちなんだ四百字までの自由作文で、名前についてのエピソードや印象に残った漢字についての作品が寄せられました。

どの作品も、はじめはその漢字に対する興味関心から始まっていますが、その漢字を掘り下げていくことで、様々な感情がわき上がり、愛着をもって捉えていることが伺えました。

来年も自分の身の回りや体験と漢字を結びつけ、漢字に対する思い入れを感じる作文が出品されることを期待しています。

小・中学生の部 優秀賞 自由部門

(講評：牧田 菊子氏)

輝かしい人生

福井県 福井県立高志中学校二年 吉田 悠華さん



講評 吉田悠華さんの作品は、伸びやかで美しい筆致から、これからの人生に寄せる作者の期待感が、「輝」という字の意味や書に対する愛着と共に伝わってくる清々しい作品です。鮮やかな色使いで、見る人の心も元気になります。

「懐」で伝わるひいおばあちゃんの思い

福井県 福井市東藤島小学校六年 秦 涼羽さん



講評 秦涼羽さんの作品からは、目と涙の部分が本当に悲しそうで、亡くなったひいおばあちゃんをしのぶ気持ちが伝わって来ました。漢字の成り立ちを自分の経験に引き寄せてとらえ、文字で表現していることに心打られました。

私の好きな事

福井県 福井市東藤島小学校六年 舟木 桜さん



講評 舟木桜さんの作品は、「古代の子どものちも自分たちと同じように、はしゃいで楽しく遊んでいたのだろう」と、時間や空間を飛び越えて古代人と対話しているような作品です。勢いのある線と明るい色彩も素敵です。

昔の漢字の月めくり

兵庫県 神戸市立明親小学校五年 山根 妃稀さん



講評 山根妃稀さんは、この作品を制作しながら「巡る季節の中で古代の人々はどんな生活をして、何を感じていたのだろう」と、古代人に思いを馳せていたのではないかと思います。漢字への深い探究心を感じました。

